

医薬品開発のプロを養成

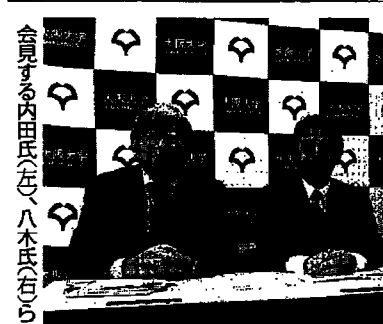
社会人対象に実務訓練

阪大と日本製薬医学会

大阪大学大学院薬学研究所・製薬会社との連携で、医薬品開発のプロフェッショナルを養成する社会人向け講座の第2期目を6月から開始する。

大阪大学大学院薬学研究所の現役研究者らが、製薬会社の開発部門の若手社員を中心に、創薬から育薬まで実務に役立つ知識や技術を、国際基準のキャリアプログラムに沿って体系的に教える。2017年8月から受講を始めた第1期生16人は今年3月に修了する予

定。第1期は20人以上の受講生を獲得したい考えだ。講座の名称は「新PharmTrain教育コース」。EUを中心に医薬品開発の教育の標準化を進める組織「PharmTrain Federation」の認定を受けた2年間のカリキュラムで、1年次は座学、2年次はワークショップ形式の演習で、創薬から臨床開発、市販後の育薬まで体系的に教える。



対象となるのは、歯・薬・自然科学部のいずれかを卒業し、製薬医学関連の実務経験を2年以上持つ社会人。履修後、基礎を満了した受講者は日本製薬医学会から修了認定を受け、製薬医学認定士（製薬医学認定医）試験の受験資格を得る。

今年3月には第1期生16人の修了を見込む。ワークショップでは、薬剤のプロファイルから治験のプロトコルを組み立てたり、メ

ディカルサイエンスリエン（MSL）の業務を模擬体験したりするといった実務訓練を実施。受講者からは「製薬業界の全体を俯瞰できた」「プロトコルの本質を理解する力がついた」と好評だったという。2月27日に大阪市内で開かれた会場で、日本製薬医学会副理事長の内田一郎氏（大阪大学大学院薬学系研究科教授）は「実務に踏み込んだ内容が多く、キャリアアップにつながる」と手応えを話している。大阪大学大学院薬学系研究科特任教授の八木清仁氏は「カリキュラムの内容は随時見直し、再生医療といったテーマも組み込んでいきたい。第2期生は20人が目標」との考えを示した。

講義は全て土曜日に行われ、東京と大阪の2会場を設けてテレビ会議システムで同時中継する。受講料は1年次35万円、2年次40万円、初年度のみ受講も可能。